



国内最古級とみられる約2500年前の準構造船の舷側板
11月23日、霧島市の上野原縄文の森

鹿兒島県立埋蔵文化財センターは23日、南さつま市金峰の中津野遺跡で2008年度に

国内最古級の船材確認

南さつま 中津野遺跡 2500年前、外洋航海か

出土した木材が、約2500年前(弥生時代前期後半)の「準構造船」の部材と判明した。専門家は「高度な造船技術を要する外洋航海が行われていたことを示す」と評価する。27日から霧島市の上野原縄文の森で公開予

定。準構造船は丸木舟から発展し、積載量を増やすため側板などを取り付けたもの。センターの寺原徹調査課長によると、木材はカヤ製の板で、長さ2・7メートル、幅30センチ、厚さ5センチ。18年から本格的に調査し、形状やほぞ穴から準構造船の舷側板と判断した。その後、放射性炭素年代測定で、紀元前5〜4世紀の木材と分かった。板は水の抵抗を防ぐためか、片面が丁寧に削られている。また別の舷側板と連結した跡があり、船の全長は6メートル程度と推定される。



中津野遺跡は東シナ海につながる川に面し、弥生時代の交易を示す高橋貝塚も近い。板の出土場所は湿地だったため、腐らずに残った。船での役目を終え、井戸枠など別の用途にリサイクルされていたと考えられる。弥生前期の準構造船の部材は静岡や広島でも出土。古代以前の船に詳しい柴田昌晃・愛媛大学埋蔵文化財調査室長は「他の2例は紀元前3世紀頃と推定しており、中津野遺跡の船が最古級となる」として「東シナ海を介し、造船技術も大陸の影響を受けていたのでは」と話した。遺跡は国道270号宮崎バイパス改築工事のため、県が06〜17年度に発掘した。出土品の整理と調査は継続中。

【問1】2008年に中津野遺跡で見つかった木材は何だったのでしょうか。

準構造船の部材

【問2】その木材は何年前のものだったのでしょうか。

約2500年前

【問3】国内で何番目に古いのでしょうか。

最古級

【問4】この木材で何がわかったのでしょうか。

高度な造船技術を要する外洋航海が行われていたこと

【調べてみよう】身近な地域の遺跡について、調べてみよう。

むずかしい漢字とことば

埋蔵(まい・ぞう) = 地中にうめてかくしておくこと。

金峰(きん・ぽう) 中津野(なか・つ)の遺跡(い・せき) 弥生(や・よい)

霧島(きりしま) 舟(ふね) 積載量(せき・さいりょう) 幅(はば) 舷(げん) = 船の側面。ふなべり。ふなばた。抵抗(てい・こう) = 逆らうこと。すなおに従えないこと。丁寧(てい・ねい) 削(けず)られ 跡(あと) 貝塚(かい・づか) = 大昔の人が食べて捨てた貝殻などが積み重なって残っているところ。湿地(しっ・ち) = しめり気の多いじめじめした土地。腐(くさ)る 枠(わく) = 細い木や竹などでつくったふち、囲み。決められた範囲。用途(よう・と) = 使いみち。詳(くわ)しい 頃(ころ) 介(かい)する = 間におく。さしはさむ。中に立てる。心にかける。影響(えい・きょう)

発掘(はっ・くつ) 継続(けい・ぞく)

